

報告タイトル

統合と規制：2010 年代以降の中国のレアアース政策の戦略化
“The Strategic Transformation of China’s Rare Earth Policy Since the 2010s”

氏名（所属）

華 佳麗（明治大学大学院）
HUA Jiali (Meiji University Graduate School)

要旨（800 字程度）

本稿は、2010 年代以降の中国のレアアース政策がいかんして発展、統合し、どのような戦略的意図のもとで展開されてきたのかを明らかにすることを目的とする。特に、「資源統制」「産業政策」「安全保障」の三層の分析枠組みを用い、2012 年の WTO 輸出規制違反と 2014 年以降の六大グループの整備と南北二極体制の確立を事例として検討する。

先行研究は主に「産業、政策史分析」「国際法分析」「国際政治経済分析」の三つの視点から知見を提示している。しかし、個別の視点に偏る傾向があり、統合的に分析する枠組みは十分に確立されていない。また、2010 年代以降の具体的な政策を整理し、それぞれの政策手段の位置付けについても十分に明らかにされていない。とりわけ、政策、産業、国家戦略三つの視点を統合し、中国のレアアース政策の全体像とその戦略的転換を包括的に検討する点に関しては再検討の余地があると考えられる。

本稿の分析により、以下の 3 点が明らかになった。第一に、輸出割当、輸出関税が撤廃された後も国家による資源統制は後退せず、2014 年の WTO 輸出規制違反は、国内供給体系を管理する方式へ転換する契機となった。第二に、六大レアアースグループの形成によって分散していた生産主体が国家主導の大型企業グループへ集約され、2021 年の中国レアアースグループ設立を経て南方資源の統合がさらに進展した。2023 年末には、中国北方レアアースグループと中国レアアースグループを中核とする南北二極への集約が明瞭となった。第三に、こうした資源統制と産業統合は、2020 年代以降、産業チェーン・サプライチェーンの安全、「自主可控」などの安全保障政策とより明確に結びついた。すなわち、中国はレアアースの採掘から加工・流通に至るサプライチェーン全体を国内に取り込むことで、国際市場における構造的優位を確立するとともに、必要に応じて供給調整を通じた対外的影響力を行使し得る条件を整えている。